

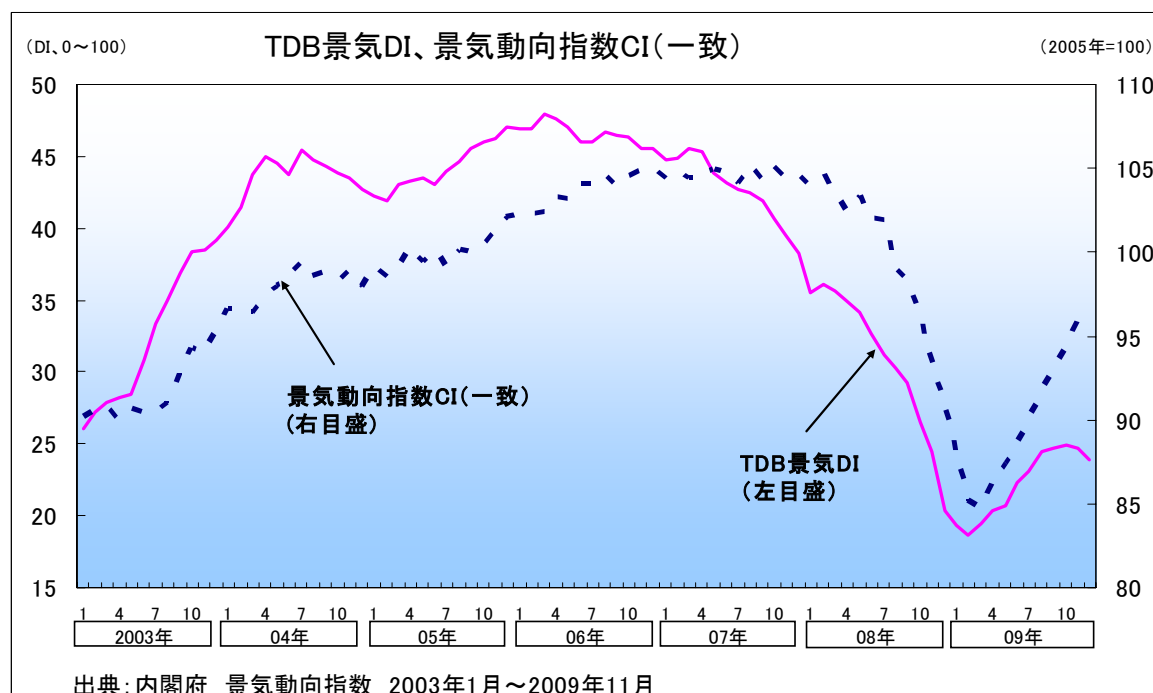
TDB 景気 DI と景気動向指数 (CI) [TDB 景気 DI]

- ・ TDB 景気 DI は 2009 年春から改善傾向にあったが、秋から踊り場局面に
- ・ 景気動向指数 (CI) は 2009 年春から改善傾向続く
- ・ TDB 景気 DI の方が悪化する時期が早い

景気動向を捉えるときに注目される指標の一つに、内閣府が発表する景気動向指数 (CI) がある。景気動向指数 (CI) とは、生産や雇用などさまざまな経済活動のなかで、重要かつ景気に敏感に反応する指標の動きを統合することによって、景気変動の大きさやテンポを測定することを目的としている。景気動向指数 (CI) には、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数がある。景気動向指数 (CI) の一致指数の変化の大きさから、景気の拡張または後退のテンポを読み取ることができる。

TDB 景気動向調査では景気を表す指標に TDB 景気 DI がある。TDB 景気 DI とは、調査先企業にその企業が属する地域・業界における現在の景況感について「非常に良い」から「非常に悪い」までの 7 段階で回答してもらい、0~100 で表した指標である。50 が判断の分かれ目となり、50 より水準が高ければ景況感は良く、低ければ悪いことを表す。

TDB 景気 DI と景気動向指数 (CI) の一致指数を比較して、どのような違いがあるか考える。



当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。

DI 分析レポート

TDB 景気動向調査 (URL : <http://tdb-di.com/>)

TDB 景気 DI の動きをみると、2003 年から金融不安が後退して改善し始めた。アテネ五輪やデジタル景気で個人消費が拡大し改善傾向にあったが、2004 年中盤から半導体・デジタル機器の在庫調整で踊り場局面となった。2005 年中盤から在庫調整の進展などにより 2006 年前半まで改善していたが、その後踊り場局面となり、サブプライム問題による外需の失速に加え、円高傾向となったこと、原油・素材価格高騰などから企業業績が悪化したこと、内需の低迷などから悪化した。2008 年後半からリーマン・ショックを発端とする金融危機の拡大による輸出不振や消費不振で急速に悪化し、2009 年 2 月には過去最低の 18.6 となった。2009 年春から、中国をはじめとする外需の復調やエコカー減税、エコポイント制度など政策的な消費刺激策などもあり緩やかに改善していたが、雇用・所得環境の厳しさが続いていることや、政策効果の息切れなどから脆弱な内需が下押し要因となり景気回復は失速した。

景気動向指数 (CI) の動きをみると、2002 年初めから暫定で 2007 年 10 月まで景気拡大局面にあったが、その後営業利益 (全産業) や有効求人倍率、鉱工業生産財出荷指数など幅広い指標で悪化したことで下落し始め、2008 年後半からほぼすべての指標で悪化し、急速に下降した。2009 年春からは生産指数 (鉱工業) や鉱工業生産財出荷指数など、生産関連の指標を中心に改善が続いていることから、改善傾向にある。

TDB 景気 DI と景気動向指数 (CI) は、類似した動きをしているものの、TDB 景気 DIの方が悪化する時期が早い。また、直近では TDB 景気 DI は踊り場局面であるが、景気動向指数 (CI) は改善傾向が続いている。このような違いはなぜ起こるのだろうか。

まず、TDB 景気 DI は現状の企業の景気認識を総合したものだが、景気動向指数 (CI) は景気の変動の大きさや量感を表しているという点で大きな違いがある。指標が上向いていても、企業の景気認識は上向くとは限らない。また、TDB 景気 DI は幅広い業界、全規模の企業を対象としているが、景気動向指数 (CI) に採用されている指標は、生産指数 (鉱工業) や鉱工業生産財出荷指数など製造関連が多く、業界による差もある。

TDB 景気 DI は網羅性が高く、幅広い業界、規模の企業における現在の景況感を知ることができる。また、景気動向指数 (CI) は 2 カ月後の発表に対し、TDB 景気 DI は翌月の第 3 営業日に発表されることから速報性も高い。TDB 景気 DI は企業の景気認識について知りたいときや、幅広い業界や規模の景気について知りたいとき、経済活動をいち早く捉えたいときに有用な指標となる。

(産業調査部 経済動向研究チーム K. S)